

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書

中性脂肪蓄積心筋血管症の診断基準（循環器）に関する研究

研究分担者 梶波 康二 学校法人金沢医科大学 医学部 教授

研究要旨

中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)の臨床像を明らかにする目的で、左室駆出率低下と心筋脂肪酸代謝障害を端緒として同疾患の臨床診断を目指した。その結果、新たに特発性TGCVと診断された症例は無かった。前年度に診断された特発性TGCV例について加療を継続した。

A. 研究目的

中性脂肪蓄積心筋血管症（TGCV）の臨床像を明らかにし、診断基準作成さらには新しい治療法開発への端緒とすること。

B. 研究方法

金沢医科大学病院循環器内科にて各種循環器疾患診療が行われた症例を対象に、以下の段階的手順によりTGCVの臨床診断を進めた。臨床診断例では既報との比較を行うとともに、前向き調査対象例とした。

1. 左室駆出率低下（<40%）の原因精査目的に入院した症例
2. BMIPP 心筋 SPECT において洗い出し率（WR）低値（<10%）の症例
3. 上記2項目を満たす症例では、冠動脈造影、心筋生検、末梢血異常（Jordans 異常）を探索

診断基準 2020 に沿って診断

既に診療診断された特発性 TGCV3 例の診療を継続し、臨床情報を蓄積する。

（倫理面への配慮）

通常診療の範囲を超える検査ならびに前向き調査については、その意義と内容を文書により説明し、文書による同意を得たのちに行った。また研究開始前に研究内容について当施設の臨床研究倫理審査委員会の審議を受け承認されている（No. I345）。

C. 研究結果

15 例が診断基準 2020 の 2 項目において境界域であったため総合的検討を行った。その結果、特発性 TGCV 診断基準は満たさないと判断された。

特発性 TGCV3 例については外来診療を継続した。心血管イベントは認めずに経過した。

D. 考察

特発性 TGCV の新規診断例は見出せなかった。症例を見出すための新たな方策については検討課題としたい。既診断例の診療を継続した。

E. 結論

今後の研究の発展には、TGCV の新規症例蓄積の重要性が確認された。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

Teerlink JR, Diaz R, Felker GM, McMurray JJV, Metra M, Solomon SD, Adams KF, Anand I, Arias-Mendoza A, Biering-Sørensen T, Böhm M, Bonderman D, Cleland JGF, Corbalan R, Crespo-Leiro MG, Dahlström U, Echeverria LE, Fang JC, Filippatos G, Fonseca C, Goncalvesova E, Goudev AR, Howlett JG, Lanfear DE, Li J, Lund M, Macdonald P, Mareev V, Momomura SI, O'Meara E, Parkhomenko A, Ponikowski P, Ramires FJA, Serpytis P, Sliwa K, Spinar J, Suter TM, Tomcsanyi J, Vandekerckhove H, Vinereanu D, Voors AA, Yilmaz MB, Zannad F, Sharpsten L, Legg JC, Varin C, Honarpour N, Abbasi SA, Malik FI, Kurtz CE; **GALACTIC-HF Investigators**. Cardiac Myosin Activation with Omecamtiv Mecarbil in Systolic Heart Failure. *N Engl J Med*. 2021 Jan 14;384(2):105-116. doi: 10.1056/NEJMoa2025797. Epub 2020 Nov 13. PMID: 33185990

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし